

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 8/29 日付 ベルブホール(ベルブ永山5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

ドキュメンタリー映画 真鍋俊永 監督

みんなの学校

① 10:30 - 12:16

② 13:00 - 14:46

14:46 - 15:30 湯浅 誠氏トーク

③ 16:20 - 18:06

④ 18:30 - 20:16



© 関西テレビ放送

チケット

前売 大人(中学生以上) 1,000円

当日 大人(中学生以上) 1,200円

子ども(4歳~小学生) 600円

(TAMA映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日600円です)

- * 全席自由席・各回入替制
- * 開場は各回15分前
- * 上映時間は変更になる場合があります。
- * トークはチケット(半券含む)提示で入場できます。

トークゲスト ● 湯浅 誠 (ゆあさまこと) 氏

1969年東京都生まれ。社会活動家。2008年末の年越し派遣村村長を経て、2009年から足掛け3年間にわたり内閣府参与を務める。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など歴任。法政大学現代福祉学部教授のほか、ラジオコメンテーター、パーソナリティとしても活動。

企画者からのメッセージ

今年の1月に偶然試写会で『みんなの学校』を観ることができました。

「すべての子供に居場所がある学校を作りたい。」大阪市住吉区にある大空小学校の1年を追ったドキュメンタリー映画でした。公立の小学校が「不登校ゼロ」を目標に掲げます。どんな状態の子供たちも、それぞれが個性だと捉える。すぐに教室を飛び出してしまう子も、つい友達に暴力をふるってしまう子も、みんなで見守ります。特別支援教育の対象となる発達障がいがある子も、自分の気持ちをうまくコントロールできない子も、みんな同じ教室で学びます。でもそれがいかに大変なことか、スクリーンからひしひしと感じられていきます。

4月の新学期開始に際して、木村泰子校長は講堂で生徒たちに名前を呼びかけながら、問いかけます。「大空小学校は誰が作りますか？」

生徒が、先生が、保護者が、そして地域の人たちが、悪戦苦闘しながらも少しずつ作りあげていきます。テンポのよい先生たちのお阪弁とあいまって、とてもきつい毎日なのに、なぜか自然と笑いも出てしまいます。1年の間に心を開いていく生徒たち。2年目の初めてクラスを任された新米先生も校長からどやしつけられ、仲間の先生たちから励まされ、また成長していきます。

このドキュメンタリーが素晴らしいと思えるのは、公立の小学校が取り組んでいるということです。生徒が変わり先生が変わり地域が変わっていく。このことは一大阪に留まらず、全国に広がる可能性を提示していると思いました。ぜひ多くの人たちに観てもらいたいと思います。公教育のあるべき姿がここにしっかり描かれていると思います。学校が変われば地域が変わる。そして社会が変わっていく。(竹内昇)

特別上映会特設ページ <http://www.tamaeiga.org/special/minna>

『Dressing Up』 安川有果 監督インタビュー

ドレッシングアップ

聞き手 (実行委員: 矢部・佐藤)



— 昨年の第14回 TAMA NEW WAVE でグランプリを受賞した『Dressing Up』がいよいよ8月15日より劇場公開されています。深い観察眼に基づいた人間ドラマとホラーやファンタジーの要素がミックスしたユニークな本作を監督した安川有果さんに本作を振り返って語って頂きました。

インタビュー全文は WEB で！

<http://www.tamaeiga.org/feature/interview/002.php>

— 本作の脚本を書いたきっかけは何ですか？

安川 一つは、神戸の事件です。私は関西の出身で、当時小学生のときで中学生だった犯人が小学生を殺害するというのは大きなインパクトがありました。その人自身を主人公にするというより、その人が親になって、その子どもの話にしたらどうだろうというのがありました。

もう一つは脚本を書き始めたときに牛井屋さんでアルバイトをしていたときに、感情を無にして手だけ動かしていた方がお店が回るなどと思って、何もかもがスピード重視になっていて感情というのは無駄になっていくのかと思ったときに、どういう状態が人間的なんだろうという疑問を持ったことです。それらが合わさったのが、今回の脚本でした。

あとは人の気持ちを知ろうとして自分を見失うほどのめり込むのはすごく人間的で、一つの人間の尊い部分かなと思ってそういう人物を描きたいと思いました。

— 神戸の事件は、ご自身に根深く影響があったんですか？

安川 ずっと考え続けていたわけではないですけど、その事件に影響された小説を読んだりしました。



安川有果 監督プロフィール

1986年、奈良県生まれ。大阪美術専門学校で映像制作を学び、2010年短編映画『カノジョは大丈夫』（出演：前野朋哉）がオムニバス企画“桃まつり presents うそ”の一本として渋谷・ユロスペースにてレイトショー上映される。この作品を参考作品に、11年大阪映像文化振興事業 CO2 (シネアスト・オーガニゼーション・大阪) に出した企画が通り、『Dressing Up』を監督。主演の袴キララが CO2 新人俳優賞を受賞した後、TAMA NEW WAVE ではグランプリと最優秀女優賞を受賞。

— 結構小説は読まれるんですか？

安川 小説は結構偏っていて、好きな小説家の作品ばかり読んでいて。その時期は舞城王太郎さんの作品にハマってしまって、その影響が少しあるかと思います。

舞城さんの作品にはコスプレみたいなモチーフがあったりして、人の真似をすとか。その時代の違和感と合致して、エンタメ的な作品になっているのが面白くて。

— 映画はどんなのがお好きですか？

安川 ハリウッド映画も好きですし、ヨーロッパ系のも好きですし、昔の日本映画も好きですし、これって言えないんですけどね（笑）。

— 本作にはグロテスクな特殊メイクが出てきましたが、そういう映画はお好きなんですか？

安川 デヴィッド・クローネンバーグ監督の『ザ・フライ』（1986）とか好きです。テーマ性がある上にちゃんと娯楽性があるっていう両立している作品にすごい惹かれます。

【作品情報】

2012/HD/68分

監督・脚本＝安川有果

撮影＝四宮秀俊

録音・音楽＝松野泉

出演＝袴キララ、鈴木卓爾、佐藤歌恋、渡辺朋弥、

平原夕馨、デカルコ・マリィ

公式サイト <http://dressingup.jp/>

（あらすじ）

桜井育美は父親とふたり暮らしの中学一年生。授業で「将来の夢」について考えるという課題が出て、自分の未来を想像することができない。「母親のような立派な人になりたい」というクラスメイトの発言を聞いた育美は、幼いころに死んだ母親がどういう人だったのか興味を持ち始める。やがて育美は、父親がずっと隠していた母親の過去を知ってしまう。けっして開けてはならない箱を開けてしまった少女。この世界で生き抜くために、愛を求めてさまよう彼女の見たものとは――。



ここでは実行委員（ひとり）のおすすめ映画を紹介いたします。

『マッドマックス 怒りのデス・ロード』（ジョージ・ミラー監督/2015年）

皆さん、『マッドマックス 怒りのデス・ロード』を何回観に行かれましたか？ 私は8回、そう、V8を達成しました（8月11日時点）。3D字幕版を2回、2D字幕版を2回、2D字幕版 極上爆音上映を4回です。一昨年、『ドライヴ』を5回観ましたが、軽く超えました（ちなみに、映画館で一番回数を観た映画は松田優作の『遊戯シリーズ』で、名画座で何回観たかわかりません。高校サボって新宿昭和館で上映中に館内でタバコを吸う堅気じゃない方々に挟まれて何度観たか）。高校生のときにフジテレビで放送された『マッドマックス2』を観て頭がクラクラし、すぐに『マッドマックス』をレンタル・ビデオで借り、大学受験前にもかかわらず『マッドマックス サンダードーム』封切り直後に映画館へ観に行き泣いた（悪い意味で）世代です（もちろん大学受験に失敗して浪人しましたよ）。

『マッドマックス2』のTV放映翌日は友達がみんなマックスになってました（『燃えよドラゴン』の放送日翌日はみんなブルース・リーになってました）。そんなオールド世代にとっても『怒りのデス・ロード』は最高です。

立川の英雄の館（別名：立川シネマ・ツー）でロング・ランを続ける限りまだまだ観ます！もう9週目に入っているけど満席ですのでまだ続くでしょう。すでにV9の予約をしました。ということで、まだ未見の方になにがスゴイのかご説明いたします。

正体不明の男が現れてトラブルを解決し去っていくという、最近では『ドライヴ』、古くは『シェーン』や股旅物もしくは日活アクションと同じ古典的なパターン（ちなみに『シェーン』の原作は映画よりも素晴らしいです）。しかも行って帰ってくるだけ。そこに、『駅馬車』のアパッチ襲撃と『ベン・ハー』の戦車のシーンとシルク・ド・ソレイユを足して500掛けて、ニトロを口に含んでインテークに吹きかけてる感じです。自分でなに書いてるかわからなくなりましたが観ればわかります。

そんな『暴走機関車』というか『新幹線大爆破』というか『狂った野獣』みたいなのに、『七人の侍』オマージュから核戦争後の農業のあり方への考察まで、ひとつひとつ無茶苦茶作りこまれています。セリフは極端に少ないながらも、圧倒的なヴィジュアルと世界観を持ち、映画のポキャブラリーが豊富で、人間の尊厳を賭けた戦いを描いており、喪失と再生の物語であるため、泣ける映画です。

さらに、登場人物それぞれが個性的で魅力的です。ラスボスのイモータン・ジョーは稀代のカリスマ、ロック・スターのようであり、人の心を操り、多段式水耕栽培にまで詳しいマルチな人で、鼻歌歌いながら居眠りするお茶目な人でもあります。

また、ボンネットに乗ってスーパー・チャージャーのインテークに容器からニトロを吹きかけてたのに、隣のウォーリグで口から直接吹きかけてるのを見て、容器に入れたニトロをわざわざ口に入れてから吹きかける頭悪い人がいたり、火炎放射器付きギター & ベースのダブルネック弾いてる人がいたり、瓶入り母乳を試飲して「うん、おいしいです」と言ってる人がいたり、訳わかりません。

ああ、字数が足りなくて、ニュークス、フリオサ、マックスについて書けない。なによりカッコいい車の話ができない。

とにかくまだ観てない方は映画史に残るこの作品をぜひ観に行ってください。私はA型レギュラーを輸血しに行ってきます。V8を讃えよ!! (マックス石井)

MAD MAX
マッドマックス
怒りのデス・ロード





11/21 (土)～11/29 (日) 開催予定！



現在は映画祭でどんな企画をしようかと案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。そして第7回目を迎える日本で一番早い(!?)TAMA 映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。皆さん、どうぞお楽しみに！

たまシネマ隊募集！

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2015 年 11 月 21 日 (土) ～ 11 月 29 日 (日) に開催予定の第 25 回映画祭 TAMA CINEMA FORUM をサポートするたまシネマ隊を募集します！

募集説明会は 10 月 4 日 (日)、10 月 18 日 (日) のそれぞれ 3 時からを予定しています。応募方法などの詳細は後日ホームページの方で発表いたします。

第16回TAMA NEW WAVE審査中！

日本映画界に新風を送り込む新しい才能の発見を目的とした中・長編コンペティション、TAMA NEW WAVE は、今年秋に開催される第 25 回映画祭 TAMA CINEMA FORUM にて開催される第 16 回 TAMA NEW WAVE コンペティションに向けて、作品募集を行いました。

今年度は 130 本の応募がありました。現在、鋭意第一次審査中です。

支援会員制度のお願い

当映画祭と一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「見る人、見せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願いいたします。

[支援金寄付 個人会員] 一口 1000円

郵便振替番号 00160-5-541123 加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

特典①:映画祭チラシ送付 特典②:映画祭パンフレット贈呈

特典③:特別上映会割引(当日料金が半額! 2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。(ご不明な点はお問い合わせください)



2008 年に TCF 公式キャラクターとして誕生した、かちんくんと仲間たち。映画祭 25 周年の本年、久々に新作を発表します！まずは 8 月上映会のマナー CM で初お目見えし、その後 Web にて順次発表予定。どうぞ、お楽しみに！

おたよりコーナー

いつも「たまシネマ通信」をご覧いただきありがとうございます。今回は質問とすてきなイラストを頂きましたので掲載いたします。

映画祭で『ノストラダムスの大予言』を上映してください。(S.Y.さん/多摩市)

最近公開された『マッドマックス 怒りのデス・ロード』や『進撃の巨人』のような、ディストピア映画の先駆けとも言える『ノストラダムスの大予言』(舛田利雄監督/1974 年)は公開当時、社会情勢も相まって大きな話題になりましたが、日本国内では諸般の事情から再上映やソフト化が行われていない作品です。

海外でもレーザディスクでの販売はあったようですがなかなか国内での入手は難しいと言われていました。が、最近では DVD も販売されているようで、入手は可能となっているみたいです。とは言っても映画祭での上映は残念ながら難しい(無理?)です。かわりに『マッドマックス 怒りのデス・ロード』を 8 回観てください。



イラスト制作 A.F.さん(横浜市)

くおたよりイラストをお待ちしています。掲載された方には秘蔵映画グッズ(シベ超グッズなど)を差し上げます

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org

@tamaeiga (最新情報をフォロー) www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)